

授業科目名	【Gカリキュラム】 【EFカリキュラム】簿記Ⅱ	その他参照	開講年次	【G】- 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	簿記入門	担当者	松井 富佐男			
授業概要	<p>【実務（証券会社・財務部門業務）経験を活かした授業】</p> <p>全授業時間を通して、決算業務に携わった経験を踏まえ、決算書類を作成するために必要な複式簿記の基本的な手続きについて学びます。会社にとって、決算書類から1年間の活動成果を把握することはとても重要になります。</p> <p>【概要】</p> <p>簿記は、企業の経営成績や財政状態を把握する上で重要な計算手続きとして活用されています。1年間の企業活動の利益を算定するためには、「複式」簿記による計算手続きが必要になります。授業では、簿記Ⅰに続いて、初心者が基礎的な簿記知識を身につけることを目指します。簿記を学んでおくと、4年生になって就職活動をするとき、志望する会社の業績判断をする上で役立ちます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1年間の企業の正しい利益を算定するために、簿記取引の処理手続きに関する基礎的な内容を学びます。そのためには、「決算整理仕訳」「8桁精算表」などをしっかり反復練習することで、複式簿記の基礎手続きの一巡を理解することができるようになります。このようにして、簿記の基本的な手続きを習得していきます。</p>					
履修条件	「簿記Ⅰ」と「簿記Ⅱ」は連続した初心者簿記の講義となるので、「簿記Ⅱ」を履修する学生は、「簿記Ⅰ」も履修してください。（原則として、どちらか一方のみの履修は認められません）。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>要点と問題を記載したプリントを配布しますが、必要に応じて授業中に指示します。</p> <p>【参考書】</p> <p>『階段式 日商簿記 3級商業簿記〔第14版〕』加古宣士、穂山幹夫監修（税務経理協会）『初歩から学ぶ簿記・経営分析』三枝幸文、松井富佐男（税務経理協会）</p>					
授業回数	授業内容					
1	商品売買（3分法）と商品勘定		予習：3分法による仕訳のルールを理解する。復習：売上原価の算定の仕方をよく覚える。			
2	仕入帳・売上帳		予習：仕入帳、売上帳の作成の仕方を理解する。復習：純仕入高、純売上高を表示するまでのプロセスをよく理解する。			
3	商品有高帳（先入先出法、移動平均法）		予習：棚卸決算に欠かせない処理なので、その意義を理解する。復習：先入先出法、移動平均法による帳簿作成を再度学習する。			
4	売掛金元帳、買掛金元帳		予習：総勘定元帳と補助簿の関係を把握する。復習：プリントの問題を再度解いてみる。			
5	受取手形・支払手形（1） 手形処理の仕訳		予習：約束手形と為替手形の違いを理解する。復習：基本的な手形処理の仕訳問題を復習する。			
6	受取手形・支払手形（2） 裏書譲渡の会計処理		予習：手形割引、裏書譲渡の意味を理解する。復習：裏書譲渡を中心に会計処理ができるように復習する。			
7	その他債権・債務		予習：どのような取引に係わるかを調べてみる。復習：プリントで問題を解いてみる。			
8	有価証券・評価替え、貸倒れと貸倒引当金		予習：評価替えと貸倒れの意味を調べる。復習：簿記の計算手続き、仕訳を確実に覚える。			
9	資本金と引出金		予習：引出金と資本金との関係をよく理解する。復習：プリント問題を解いてみる。			
10	固定資産の取得と減価償却		予習：有形固定資産にどのようなものがあるかを調べてみる。復習：減価償却の計算（定額法）を再度学習する。			
11	費用・収益の繰延べと費用・収益の見越し		予習：資料で、発生主義の考え方を理解する。復習：プリントの問題を解いて、確実に仕訳できるようにする。			
12	8桁精算表（1） 決算整理仕訳		予習：決算整理仕訳にどのようなものがあるかを把握する。復習：仕訳から誘導的に8桁精算表に転記できるようにする。			
13	8桁精算表（2） 計算の仕組み		予習：8桁精算表の計算を通して、完成させる順序を覚える。復習：「仕入」欄と「売上原価」欄で行う場合の計算の仕組みを理解する。			
14	伝票		予習：実務では重要な作業なので、資料をよく読んでくる。復習：5伝票の起票の仕方を再度学習する。			
15	総合問題演習と解説		予習：理解不十分な箇所を資料で補う。復習：プリントの問題を再度解いてみる。			
評価方法	授業で行う理解確認シート（40%）、総合問題演習（60%）					
評価基準	上記授業内容について、よく理解し適切に課題を完成させた者には「A」（うち特に優れたものには「S」）、一部理解が不十分な個所のある者には、その程度に応じて「B」または「C」とする。授業内容の理解が不十分な者については、その程度に応じて「D」または「E」、評価不能の場合は「F」とする。					
その他	※G別：法【-】 対【-】 情【-】／EF別：法【-】 対【-】 経【選択必修（α）】					